

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 総合学科高校の特色を活かし、魅力ある授業の充実と生徒の進路実現で生徒の学ぶ力と自信を育む学校。
- 健全な市民を育成し、地域や社会を活性化する有能な人材を輩出する、地域から信頼される学校。
- 地域との連携、地域への貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成を実践する学校。

<本校の教育目標>

生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する

- 1 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する
- 2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する
- 3 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する
- 4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う

2 中期的目標

2021 年度を目標に、更なる本校の取組みの充実をめざすための 3 年間を見据えた中期目標とする。

生徒が生きる力と自信を高め、目標に向け前向きに努力する意識と力を育成する

1. 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する

(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い

「わかる授業」を通じて基礎学力を向上させ、生徒の高校生活や進路への自信を育む

① 総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての実力の育成

ア 各系列のさらなる特性を生かした地域貢献の取組みや、授業での外部講師等の活用で魅力ある総合学科の充実をおこなう。

イ きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心の向上で進路実現に必要な基礎学力、学ぶ力の向上

ウ 教員の教材研究・研究授業の活性化、授業力向上のための校内研修、授業アンケートの活用、公開授業、教員同士の授業観察等により教員の授業力の向上をめざす。

エ 生徒向け学校教育自己診断における学習指導の肯定感の平均を向上させ、2021 年度には 60%以上の肯定感を維持する。(H30 61.5%)

オ 英検、漢検、系列での各種資格・検定などへの生徒の興味付けを進め、生徒の学習面での伸びしろを引き出す取組みを行う。

(2) 入学から卒業まで 3 年間を見越したキャリア教育の実践…生徒の多様な進路実現への支援

① 中退率の減少 …生徒の基本的な生活習慣や中高連携、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用等を通して中退防止に努める。

※今後 3 年間で中退率府平均 2%以下(平成 30 年度 1.2%)を維持する。

② 進路未決定者の減少 …高校生活 3 年間を見越したキャリア教育を実践して生徒の進路意識を高め、進路未決定率 8%以下の維持

③ 就職決定者の増加 …高校生活 3 年間を見越したキャリア教育の充実、応募前職場見学の実施によって、就職内定率 100%(H30 98.2%)を毎年維持する。

④ 大学進学の実現 …「未来創造室」を活用し大学・短期大学への進学情報の提供と補講等の充実により、進学希望者をサポートする。

※指定校推薦、AO 入試等生徒への入試情報の提供で大学入学希望者の希望大学への入学支援の充実。

2. 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する

(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる …取組みの重点項目、①授業規律②欠席・遅刻指導③服装・頭髪指導④あいさつの励行

※挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風を育む。

※遅刻者総数については、平成 30 年度(1524 名 2 学期末値)から現状を維持しながら、2021 年度には年間遅刻者数 1600 台をめざす。

(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心(帰属意識)の向上

① クラス活動の活性化…体育祭・文化祭等の行事や日々のホームルームを通じてクラス活動の活性化を行う。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 30 年度は 56.6%だった「クラス活動は活発である」の肯定感を 2021 年度には肯定感 60%以上をめざす。

② 生徒会活動の活性化…毎日の挨拶運動や学校行事の企画・運営など現在の生徒会執行部の活動を継続・強化していく。

※生徒会が中心となって「生徒による学校活性化プロジェクト」を開始、創立 20 周年に向けたプランニングの作成。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 30 年度は 53.7%だった自主活動に関する項目の肯定感の平均を向上させ、2021 年度には肯定感 60%以上をめざす。

③ クラブ活動の活性化…平成 30 年度のクラブ加入率は 46.1%と前年度より増加した。平成 31 年度からも体験入部の工夫や積極的な勧誘によって新入生のクラブ加入率を高めていく。 ※クラブ加入率を毎年向上させ、2021 年度には、50%以上をめざす。

(3) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成 …幼・保・小・中・大の各学校や、自治体、地域教育協議会、地元商店街などと連携し、地域行事にも積極的に生徒が参加することで、生徒の自己有用感や自己効力感、自他への肯定感を育む。また各系列の特色ある学習の取組みや生徒会活動を通じ地域貢献を推し進め、地域から信頼される学校をめざす。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 30 年度は 56.5%だった地域連携に関する肯定感の平均を 2021 年度には 60%以上の肯定感をめざす。

(4) 人権教育の更なる充実 …障がい者理解、同和問題や在日外国人問題など人権 HR を充実させることで生徒の人権意識を育み、豊かな心と人権感覚豊かな生徒の育成。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成 30 年度は 70.6%だった人権教育に関する肯定感の平均を毎年 70%以上に維持する。

(5)教育相談活動の充実…教育相談委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進するとともに、教育相談委員会と人権教育推進委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。

3. 共生推進教室を軸に「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践する

(1)共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する …「ともに学び、ともに育つ」をコンセプトに学習活動や部活動、学校行事等においてインクルーシブ教育の更なる実践を推進する。

※生徒向け学校教育自己診断において、平成30年度は65.9%だった共生推進に関する肯定感の平均を60%以上に維持する。

4. 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う

(1)家庭・保護者との連携 …家庭との連携を密にするとともに、学校行事やPTA活動への保護者の参加率を高め、保護者と学校が協力し生徒を育てる校風をつくる。

※保護者向け学校教育自己診断において、平成30年度は44.8%だったPTA活動に関する肯定感を2021年度には55%以上にする。

(2)校内組織の連携と情報発信力の強化 …学校ホームページの充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れる。

5. 教員の働き方改革について

府立学校において、教職員の長時間勤務の軽減に向けた働き方改革の促進として次の取組みを行う。

(1) 全校一斉退庁日の設定・ノークラブデーの明確化

(2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 生徒が学ぶ喜びと学ぶ力を高め、希望する進路を実現する力を育成する</p>	<p>(1) 魅力ある系列・授業で生徒自身の将来の可能性との出会い</p> <p>(2) 入学から卒業まで3年間を見越したキャリア教育の実践</p>	<p>ア、総合学科の特色を活かした魅力ある授業づくりで生徒の学習意欲、学ぶ力の向上と進路実現へ向けての学力の育成</p> <p>イ、7つの系列のさらなる特性を生かした取組みや系列での地域貢献や授業での外部講師等の活用で魅力ある総合学科の充実をおこなう。</p> <p>・「探究」等の生徒の学びの成果を発表する機会を充実させる。</p> <p>ウ、系列での実践をホームページ等でリアルタイムで発信する</p> <p>エ、きめ細かい指導で生徒の学習への意欲、習慣、興味・関心を向上させ進路実現に必要な基礎学力の向上</p> <p>オ、授業力向上のため年2回授業アンケートを実施し、振り返りシートをもとに授業改善をめざす。</p> <p>カ、公開授業週間を通じて、教職員同士で授業観察を行い、授業観察シートを提出させる。</p> <p>キ、英検など各種資格・検定などへの生徒の興味付けを進め、生徒の学習面での伸びしろを引き出す取組みを行う。</p> <p>①中退率の減少</p> <p>ア、毎月の教育相談委員会に中退防止の視点を加え、学年との連携を強化する。スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用した教育相談体制の強化。</p> <p>イ、家庭との連絡、家庭訪問の状況、家庭状況の把握等を丁寧に行い、社会福祉施設等の関係機関とも連携も行う。</p> <p>ウ、生徒の出身中学校との連携を強化し生徒支援の助言を得る。</p> <p>②③進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <p>ア、「未来創造室」を有効に利用した指導で、進路未決定率を減少させる。</p> <p>イ、進路指導部と学年、系列で連携した入学から卒業までを見越したキャリア教育を行っていく。</p> <p>・1年次より、各分野の講師を招いての講演会を開催し、生徒の進路意識を高めていく。また、1年次は産業社会と人間で、前期のガイダンス指導を徹底し系列選択のミスマッチをなくす。後期の系列別授業の強化を行い、2年次以降の系列での学習と目標とする進路のマッチングを行っていく。</p> <p>・2年次では、インターンシップ、オープンキャンパスへの積極的な参加への推進を行い、進路実現へのモチベーションを向上させる。系列の学習内容を大学・専門学校など学校外の資源を十分に活用しながら充実させる。</p> <p>・3年次では、進路指導部と系列が連携した進路指導・就職指導を行い、面接指導・応募前職場見学参加指導を充実させ進路実現の実績を向上させる。</p> <p>④大学・短期大学の合格者輩出</p> <p>ア、「未来創造室」を有効に活用する。</p> <p>①指定校推薦、AO入試等きめ細かな進学情報の提供を活発に行う。</p> <p>②1年次から学力生活実態調査を実施し、個々の生徒の学力状況を把握し、状況に応じた指導を行う。</p> <p>イ、保護者向けの進学説明会を実施し、経済的な面を含めて、大学進学に向けて家庭の協力を得られるようにする。</p> <p>ウ、長期休業中は、講習を開催する。</p>	<p>ア、イ学校教育自己診断の全般（学校に行くのが楽しい、この学校に入学してよかった等の項目）が60%以上を維持。 (H30:62.5%)</p> <p>・系列の専門性と多様性の向上</p> <p>オ 教員の授業振り返りシートの提出率の維持 (H30:100%)</p> <p>教員の授業観察件数の増加 (H30:38件)</p> <p>生徒向け学校教育自己診断の学習指導の肯定60%以上の維持 (H30:61.5%)</p> <p>① 中退率の減少 中退率の減少2.0%未満 (H30:1.2%)</p> <p>ア～エ、教育相談委員会の開催回数の維持 (H30:11回)</p> <p>ウ、中高連携の緊密化 (H30 出前授業2回、中学校での学校説明会3回)</p> <p>②③進路未決定者の減少と就職決定者の増加</p> <p>ア、イ、 ・進路未決定者の割合7.0%未満を維持 (H30:8.7%)</p> <p>・就職内定率95%以上 (H30:98.2%)</p> <p>・就職試験一次合格率70%以上を維持 (H30:76.5%)</p> <p>・インターンシップ参加者数の推進 (H30:38人)</p> <p>④大学・短期大学の合格者輩出</p> <p>ア、イ、大学合格実績合格者輩出 ・大学進学希望者へのきめ細かい進路情報の提供で、希望大学への進学実現。</p> <p>・進路説明会回数 (H30:2回)</p> <p>ウ、夏期・冬季講習30名以上の参加 (H30:38名)</p>	<p>自己評価</p>

<p>2 豊かな心と人権意識を身につけ、将来、社会や地域に貢献できる生徒を育成する</p>	<p>(1) 公共心と規律性を備えた樟風生を育てる。</p> <p>(2) 生徒による学校の活性化で生徒の愛校心の向上</p> <p>(3) 地域連携・地域貢献で生徒の自己有用感、自己効力感の育成</p> <p>(4) 人権教育の更なる充実</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア. 生徒会、全教職員による挨拶励行運動で「あいさつの樟風生」の気風をつくるとともに、生徒の学校生活への規範意識を育む。</p> <p>イ. 登校指導の充実や遅刻過多者への早朝指導及び放課後指導を引き続き徹底し、遅刻者を減少させる。</p> <p>ウ. 服装・頭髪指導の学年間の基準の統一に努めるとともに、イエローカード制度の運用に関しての教職員の認識を共有化して、生徒の規律性の育成を図る。</p> <p>エ. 問題事象について事例検討会を開催し、問題事象への対応方法や指導方針に関して教職員全体の共有化を図る。</p> <p>①クラス活動の活性化</p> <p>ア. 年間ホームルーム計画を作成し、ホームルーム活動を活性化させる。</p> <p>イ. 遠足・体育祭・文化祭という行事を中心に担任間の連携を強化し、クラス活動の活性化を図る。</p> <p>ウ. 保健部が中心となり毎日の清掃等の徹底を図る。</p> <p>②生徒会活動の活性化</p> <p>ア. 体育祭・文化祭・学校説明会などで生徒会の役割を増やし、生徒会の強化を行う。</p> <p>イ. 体育祭や文化祭等の学校行事を一層活性化して、生徒の学校行事における自己達成感を高める。</p> <p>ウ. 朝の挨拶運動、生徒会通信の発行等を恒常的にを行い、生徒会活動の活性化を行う。</p> <p>エ. 生徒会が中心となって「生徒による学校活性化プロジェクト」を開始創立20周年に向けた具体の取組み</p> <p>③クラブ活動の活性化</p> <p>ア. クラブ活動に関する情報の発信や体験入部等の工夫を通じて1年生の新規加入はもちろん年度途中の入部者を増やすことで、加入率の増加をめざす。</p> <p>系列での授業やクラブ活動・生徒会の活動を通じて積極的に地域との交流や連携・貢献を行う中で、立案や発表など生徒の社会人基礎力を醸造するとともに、地域から感謝、期待される中で自己有用感・自己効力感を高める。</p> <p>ア. 枚岡中学校区及び縄手北中学校区地域教育協議会との連携を深め、秋の地域交流の企画に積極的に参加する。</p> <p>イ. 福祉・保育系列や農と自然系列を中心に旭町子育て支援センターや近隣の幼稚園・保育所との交流を促進し、地域への貢献を果たす。</p> <p>ウ. 農と自然系列や工業デザイン系列を中心に瓢箪山地域まちづくり協議会との連携を深め、地域への貢献を果たす。</p> <p>エ. クラブや生徒会が中心となって、地域一斉清掃を瓢箪山地域まちづくり協議会と連携しながら推進し、地域への貢献を果たす</p> <p>ア人権HR計画に基づいて、障がい者理解、同和問題や在日外国人問題、新しい人権問題などを人権HRで扱い、生徒の人権意識を高める。</p>	<p>(1) 授業規律、欠席・遅刻の減少、服装・頭髪指導・あいさつ</p> <p>ア～エ.</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒のあいさつができて自己評価の調査をおこなう。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業は規律正しく行われていると思う」の肯定感3ポイント以上の上昇 (H30: 68.2%) ・遅刻者数 1600 台維持 ・懲戒件数 10%減少 (H30: 遅刻者数 1980) (H30: 懲戒件数 34 件) ・生徒向け学校教育自己診断「先生は協力して生徒指導に当たっている」の肯定感の60%以上を維持 (H30: 63.8%) <p>① クラス活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「クラス活動は活発である」の肯定感の上昇 (H30: 56.6%) <p>② 生徒会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による学校活性化プロジェクトの検討 ・生徒向け学校教育自己診断「生徒会活動は活発である」の肯定感の上昇 (H30: 52.5%) <p>③ クラブ活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加入率 50%以上 (H30: 46.1%) ・生徒向け学校教育自己診断「部活動は活発である」の肯定感の上昇 (H30: 62.3%) <p>系列やクラブ・生徒会で地域貢献</p> <p>ア～エ. 地域連携の回数の増加 (H30: 71 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規の地域連携の回数 (H30: 14 回) ・生徒向け学校教育自己診断の地域連携の項目の肯定感の上昇 (H30: 56.5%) <p>人権教育の更なる充実</p> <p>ア～ウ.</p> <p>学校教育自己診断の人権教育項目の肯定感平均の70%以上の維持 (H30: 70.6%)</p>	
---	--	--	---	--

	(5) 教育相談活動の充実	ア、教育相談委員会と学年の連携による一層の生徒の教育相談活動を推進 イ、教育相談委員会と人権教育推進委員会との連携によるいじめ防止に対する取組みの一層の充実を図る。	ア、毎月スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーも交えた教育相談委員会の開催 イ、いじめ防止委員会の定例化(学期1回の開催) ウ、いじめアンケートの年2回の実施	
3 育を 実践 する	(1) 共生推進教室でインクルーシブ教育を実践する	○「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育を実践 ア、共生推進教室生徒の成長を促すことで、併せて、総合学科生徒の人権教育を推進する。 イ、インクルーシブ・ルームを活用しての教職員研修の実施 ウ、インクルーシブ・ルームを活用してのアクティブ・ラーニングなどの授業実践。 エ、新入生のクラス開き・学年開きで共生推進教室の生徒や配慮を要する生徒の紹介を行う。 オ 日常的なクラス活動・クラブ活動・授業などで、配慮を要する生徒と共に学校生活を送る経験を積み、互いの理解の促進を図る。	ア～ウ。 ・生徒向け学校教育自己診断の共生推進項目の上昇(H30:65.9%) ・総合学科の卒業率の上昇(H30:84.2%) ・共生推進教室の一斉授業の肯定感の上昇(H30:50.0%)	
4 学校と保護者・地域が連携し、ともに生徒の成長を支援する開かれた学校として府民から信頼される学校づくりを行う	(1) 家庭・保護者との連携 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化	(1) 学校の情報を発信し、PTA活動や学校行事への保護者の参画率を高める。 ア、授業参観への参画率を高める。 イ、体育祭や文化祭など、学校行事への参画率を高める。 ウ、PTA活動への参画率を高める。 (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア ホームページの充実、中高連携や学校説明会などの広報関係に力を入れ、学校情報を更に発信し地域から信頼される学校をめざす。 イ 学校説明会、出前授業で学校の取組情報の発信	(1) 保護者の参画率の向上 ア～ウ ・保護者向け学校教育自己診断において、参画に関する肯定感の上昇(H30は44.8%) ・学校教育自己診断の保護者提出率の上昇(H30:45.0%) (2) 校内組織の連携と情報発信力の強化 ア、学校ホームページの充実と保護者学校メーリングリストの保護者加入書の増加 イ、学校説明会の参加者数の500名以上(H30:459名)	
5 改革について	(1) 全校一斉退庁日・ノークラブデーの明確化 (2) 時間外勤務の縮減と学校閉庁日の設定	ア、本校では毎水曜日が全校一斉退庁日となっている。緊急時の対応以外は午後7時までに退庁する。 イ、部活動を行わない日をクラブ毎に週1回設定をしている。各部活動のノークラブデーを掲示するなど明確化に努める。 ウ、学校閉庁日の設定	ア、全校一斉退庁日の徹底実施 イ、「大阪府部活動のあり方に関する方針」の順守 ウ、学校閉庁日の設定	